

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究
研究分担者 谷口 昇 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授

研究要旨 胸椎後縦靱帯骨化症術後観戦の危険因子

A. 研究目的

胸椎後縦靱帯骨化症術後感染の危険因子を検討すること。

B. 研究方法

対象は 2007 年から 2020 年まで胸椎後縦靱帯骨化症に対して脊椎後方除圧固定術を行った 43 例。感染群と非感染群との二群間比較を行った。

(倫理面への配慮)

インフォームドコンセントの実施と文書での同意の取得

C. 研究結果

感染群 / 非感染群の比較では、身長 1.72/1.60m (P=0.04)、BMI 36.9/30.0 Kg/m² (P=0.049)、手術時間 537.4/377.6 分であり、高身長の高身長群、長時間手術が感染しやすかった。

D. 考察

胸椎後縦靱帯骨化症は高度肥満のため展開、閉創といった軟部処置に時間がかかることが多い。術後創部管理として早期陰圧閉鎖療法や脂肪組織が多い皮下にドレーン留置などの対応も必要であると考えられた。

E. 結論

胸椎後縦靱帯骨化症に対して脊椎後方除圧固定術を行った症例において、感染群では高度肥満群、長時間手術が有意に多かった。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第 50 回日本脊椎脊髄病学会 (2021)

3-5-F99-2 胸椎後縦靱帯骨化症術後感染の危険因子

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし